

FROM ECONOMIC GROWTH TO HAPPINESS: LEARNING FROM EXPERIENCES IN BHUTAN AND THAILAND

W090082

大原 由衣

2013年1月16日

卒論発表会

はじめに

- × すべての途上国の人々の状況を私たちが「貧困」と呼ぶのは正しいのか。先進国で、お金があっても精神状態が貧しい人々は貧困ではないのか。
- × どのような国際開発が真に貧困に苦しむ途上国の人のためになるのか。それを探るには、彼ら自身が幸せかどうかという点が重要なのではないだろうか。

国際開発における政策の変遷

- × 1960年代...経済成長重視の開発
- × 1970年代...ベーシック・ヒューマン・ニーズ
- × 1990年代...人間開発

- × →徐々に人間中心の開発へ

新しいアプローチ — “HAPPINESS” のための開発

× Happinessとは何か？

3つのアプローチ

- ① 楽しい生活
- ② 良い生活
- ③ 意味ある生活

図1 生活に関するアプローチとその哲学的基礎

Hamilton, Clive (2011) pp.66

アプローチ	目的	測定方法	克服されるべき課題	哲学的機基礎
楽しい生活	快樂	GDP	希少性	功利＝効用主義 快樂主義
よい生活	ケイパビリティ開発	HDI	能力の潜在化	エウデモニズム ケイパビリティ (カント、ロウルズ、セン、ヌスバウム)
意味ある生活	他者・至高存在	なし	意味喪失	徳、倫理、内部への沈在 思いやり (アリストテレス、仏教)

どのアプローチがHAPPINESSに結びつくの だろう？ 1

楽しい生活

...経済成長はHAPPINESSに結び付かないことがいくつかの論文で発表されている。

- Easterlin, Sawangfa →

経済成長とHAPPINESSの関連性はないことを証明
(高橋, 2011)。

- Knight, Gunatilaka →

経済成長の著しい中国において、都会の人々の幸福度は田舎に住む人々の幸福度に比べて低いことを証明。

どのアプローチがHAPPINESSに結びつくの だろう？ 2

よい生活

Mariano→

- 基本的なニーズの充足はHAPPINESSに結び付く。
- たとえ収入が低くても、自分のケイパビリティが適応されればされるほどHAPPINESSに結び付く傾向がある。

どのアプローチがHAPPINESSに結びつくのだろうか？ 3

意味ある生活

- Davidson, Cotter → 共同体意識をもっているか否かは人々の主観的幸福感に密接に関係していることを証明。

まとめ

- ☆ 経済成長や成長率にこだわる必要はない。
- ☆ 良い生活へのアプローチは人間開発指数(HDI)に反映されているが、意味ある生活へのアプローチを測定する主要な指標はない。
- ☆ そのため、意味ある生活へのアプローチは国際開発において常に見落とされがちである。

ブータン、タイの経験から学ぶ“HAPPINESS”のための開発

- × ブータン
- × GDP,HDIからみると「発展途上国」。
- × 2005年の国勢調査によると、国民の97%が「幸せですか」という質問に「幸せである」と答えている。
- × 独自の政策国民総幸福量 Gross National Happiness を1970年代から取り入れている。

国民総幸福量（GROSS NATIONAL HAPPINESS）とは？1

- × 1972年に国王ジグミ・シンゲ・ワンチュクが提唱後、ブータン王国で初めて調査され、以後、国の政策に活用されている。
- × 国民一人当たりの幸福を最大化することによって社会全体の幸福を最大化することを目指すべきだとする考えから誕生したもの。政府が具体的な政策を実施し、その成果を客観的に判断するための基準にするのが主な用途。

国民総幸福量(GROSS NATIONAL HAPPINESS)とは？2

● 9つの指標

1. 心理的幸福、2. 健康、3. 教育、4. 文化、
5. 環境、6. コミュニティー、7. 良い統治、8.
生活水準、9. 自分の時間の使い方

● 「家族は互いに助け合っているか」「睡眠時間」「植林したか」「医療機関までの距離」など生活により密接した72の指標を策定

タイの例

- × 1970年代に急速な発展を遂げ、経済的に「先進国」となる
- × 1997年7月 アジア金融危機による大打撃を受ける
- × また、急速な発展により、国内間の貧富の差、家族やコミュニティの希薄化、森林伐採が顕著になる

SUFFICIENCY ECONOMY - 足るを知る経済とは？ -

- × 1997年のアジア金融危機に際してタイのプミポン国王は「足るを知る経済」（Sufficiency Economy）を提唱。
- × その後国家経済社会開発計画のマクロ政策の基本哲学となっている。
- × 「足るを知る経済」とは自然・人・社会の本来のあり方に目覚め、内なる「心の開発」をも含んだ社会の「内発的・自立的な人間開発」を目指すもの。従来の西洋近代をモデルにした「外発的・他律的な経済中心の開発はいはつ」からのパラダイム転換であるとされる。
- × グローバル化の時代に外的・内的な衝撃にうまく適応するための、家族、コミュニティから政府まで全てのレベルでの指針。

おわりに

- × 貧困は物質的な欠如によるものだけではなく、先進国にも存在している。
- × そのため、真の意味で貧困をなくすには経済成長重視の開発は意味をなさず、むしろ多くの問題を生む可能性がある。真の意味で貧困をなくすには、幸せを含んだ人間中心の開発が必要不可欠である。
- × しかし、開発において常に人々の主観的な幸福は見落とされがちであり、それを測る主要な指標も国際開発の分野に存在しない。

●結論

- Happinessを測る主要な指標を国際開発の分野で取り入れていかなければならない。
- GDPばかりを追い求めるのではなく、ブータンやタイのようにGDPを超えた、真の意味で貧困をなくす考えや政策をもつべきである。

参考文献

- × 西川 潤(2011)『グローバル化を超えて 脱成長期 日本の選択』日本経済新聞出版社
- × ハミルトン,クライブ(2011)「開発と倫理」『開発を問い直す』(西川 潤, 下村恭民, 高橋基樹, 野田真里編)日本評論社
- × ブータン～国民総幸福量 (GNH)を尊重する国, <http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol79/index.html>,(accessed on 20/12/2012)
- × Davidson, W and Cotter, P (1991) “The relationship between sense of community and subjective well-being: A first look”, Journal of Community Psychology, volume 19, pp.246-253.
- × Knight, J and Gunatilaka,R(2011), “Does Economic Growth Raise Happiness in China?”, Oxford Development Studies, Volume 39, Issue 1, pp1-24.
- × Mongsawad,P (2009) “Sufficiency Economy: A Contribution to
- × Economic Development”, International Journal of Human and Social Sciences, Volume4, Number 2 Writer.
- × United Nations Development Program (2007) “Thailand Human Development Report 2007” Bangkok: United Nations Development Program.
- × Rojas, M (2004), “Well-being and the Complexity of Poverty: A Subjective Well-being Approach”, WIDER Research Paper, UNU-WIDER.